

Title	唐宋時代貨幣研究論文類目
Author(s)	佐伯, 富
Citation	東洋史研究 (1937), 3(1): 58-63
Issue Date	1937-10-21
URL	http://dx.doi.org/10.14989/145590
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

唐宋時代貨幣研究論文類目

一 概 説

臺灣總督府編 貨幣 清國行政法第三卷、第一編、第六章第一節 大四、三

加藤 繁 貨幣 經濟學全集第二十八卷、支那經濟史第九章 昭八、十一

同 貨幣 東洋歴史大辭典四卷、支那 昭十二、八

森 慶來 貨幣(唐代) 世界歴史大系、東洋中世史(第二編、第四章第二節) 昭九、五

日野開三郎 貨幣(宋代) 世界歴史大系、東洋中世史(第三編、第三章第一節) 昭九、十

宮崎 市定 通貨(宋) 世界文化史大系、宋元時代、宋元の經濟的狀態 昭十、十

日野開三郎 外國貿易、東洋歴史大辭典四卷、支那商業 昭十二、八

加藤 繁 支那に於ける紙幣の歴史 史學雜誌四八、九(講概) 昭十二、九

中島 敏 紙幣 東洋歴史大辭典四卷、支那 昭十二、八

加藤 繁 交子 經濟學辭典二 昭六、二

榎 一雄 交子 東洋歴史大辭典三卷 昭十二、六

日野開三郎 交鈔 同 昭十二、六

加藤 繁 見錢關子 經濟學辭典二 昭六、二

日野開三郎 爲替 東洋歴史大辭典四卷、支那 昭十二、八

加藤 繁 飛錢 經濟學辭典五 昭七、一

中島 敏 貨幣としての金銀 東洋歴史大辭典四卷 昭十二、八

支那 支那 昭十二、八

二 銅 鐵 錢

宮崎 市定 小作樣式の流行 世界文化史大系、宋元時代、宋元の經濟的狀態 昭十、十

小野 勝年 唐代に於ける一禁令の解釋に就いて 史林二二、一 昭十二、一

○

- 稻葉 岩吉 銅禁令、銅禁令行使の範圍(唐) 大十一、九
支那社會史研究
- 黃 君 默 唐代的貨幣 食貨四、十一 昭十一、十一
唐代的貨幣
- 金井 之忠 唐代的錢貨問題 文化 四、三 昭十二、三
唐代的錢貨問題
- 傳 安 華 唐中葉以後的貨幣問題 昭十一、七
中國經濟四、七
- 戴 振 輝 五代貨幣制度 食貨二、一 昭十、六
五代貨幣制度
- 劉 樊 五代的錢幣 同 四、二 昭十一、六
五代的錢幣
- 田中 忠夫 北宋貨幣史論 東亞經濟研究四、四・五、一 大九、十、十一、十二
北宋貨幣史論
- 日野開三郎 北宋時代に於ける銅鐵の產出額に就いて 昭九、十二
東洋學報二二、一
- 同 北宋時代に於ける銅鐵錢の鑄造額に就いて 昭十、一
史學雜誌、四六、一
- 同 北宋時代に於ける銅鐵錢の需給に就いて 昭十一、五・六・七
歷史學研究 六、五・六・七
- 同 北宋時代に於ける貨幣經濟の發達と國家財政との關係に就いての一考察
- 日野開三郎 北宋時代の博羅に就いて 昭十、三
歷史學研究四、三
- 同 北宋時代に於ける銅鐵錢行使地域劃定策に就いて 東洋學報二四、一二一 昭十一、十一・十二、二
- 加藤 繁 宋の貨幣政策と西夏の入寇 昭十一、二
史學雜誌四七、二(講概)
- 曾我部靜雄 宋の錢荒 文化三、三 昭十一、三
宋の錢荒
- 藤田 豐八 銅錢出口の禁令(宋代の市舶司及び市舶條令、第四市舶條令) 大六、五
東洋學報七、二
- 桑原 隲藏 (東西交渉史南海篇所收) 大十二、十一
支那銅鐵の海外流出 清壽庚の銅錢輸出の禁令及びその無効
- 同 唐宋時代の銅錢 歷史と地理 一三、一 大十三、一
(東洋文明史論叢所收)
- 内田 銀藏 貨幣流通の發展 日本經濟史の研究上、日本經濟史概要第四章 大十、三

木宮 泰彦

南宋との貿易 日支交通史下巻、第一章

昭二、十

小葉田 淳

支那錢の輸入 日本貨幣流通史前編、第一章第一節

昭五、十一

同

中世初期の錢貨流通について

昭九、二

秋山 謙藏

徒然草と支那錢の流通

昭八、十二

同

宋代の南海貿易と日宋貿易との連繫

史學雜誌四四、十二

同

森 克巳

日宋交通に於ける我が能動的貿易の展開

史學雜誌四五、二二・三四 昭九、二・三・四

秋山 謙藏

中世外交貿易史の再吟味

昭九、十

森 克巳

日唐貿易の形態——日宋貿易の基礎問題——

史學雜誌四六、六 昭十、六

同

日宋貿易の展開と關稅的性質の發生

史學雜誌四五、七（講概） 昭九、七

歷史地理六六、一二一 昭十、七八

同

日宋貿易の旋回

——自由貿易より統制貿易への復歸——

史學雜誌四七、六（講概） 昭十一、六

東洋學報二三、四 昭十一、八

秋山 謙藏

元寇以前に於ける金融業者の擡頭と國內安不の増大——鎌倉前期の支那錢流通を中心とする研究——

社會經濟史學七、一二一 昭十二、四・五

森 克巳

日宋交通と日宋相互認識の發展

史學雜誌四八、七・八 昭十二、七八

田中 忠夫

遼代貨幣史論 東亞經濟研究四、三

大九、七

劉 興 唐

宋代陸上の國際貿易 文化批判二、四 昭十、二

加藤 繁

宋と金との貿易に就いて 史學雜誌四六、四（講概） 昭十、四

同 四八、一 昭十二、一

曾我部靜雄

宋金貿易史上に於ける銅錢の問題 文化四、六 昭十二、六

中島 敏

西夏に於ける鑄錢に就いて 史學雜誌四七、六（講概） 昭十一、六

同

西夏に於ける銅鐵錢の鑄造に就いて 東方學報、東京第七冊 昭十一、十二

小葉田 淳

高麗朝貨幣史考 經濟史研究二十 昭六

秋浦 秀雄

高麗肅宗朝に於ける鑄錢動機について

青丘學叢七・八・九 昭七、二・五・八

程維新 宋代廣州市對外貿易的情形

食貨一・一二一 昭十、五

○

F. Hirth and W. W. Rockhill;

Chau Ju-Kua On the Chinese and Arab Trade
in the Twelfth and Thirteenth Centuries
Introduction. p.p. 72—81. p. 126.

Hirth; Die Lander des Islam nach chinesischen

Quellen. T'oung Pao. 1894. s. 34.

Hirth; Early Chinese Notices of East African
Territories. J. A. O. S. 1909. p. 55.

John Crawford; A Descriptive Dictionary of the
Indian Islands and Adjacent Countries.
1856. p. 94.

Schlegel; Geographical Notes. T'oung Pao. 1899.
p.p. 264—265.

Yule and Cordier; Marco Polo. vol. II p. 337.

三、紙 幣

加藤 繁 交子關子會子名稱について

史學雜誌四六、七(講概) 昭十、七

同 交子會子關子といふ語の意味に就いて

東方學報、東京第六冊 昭十二、二

池田 靜夫 交子の形式に就いて——支那最古の紙幣

の形式——文化四、五 昭十二、五

加藤 繁 交子の起源に就いて

史學雜誌四一、七(講概) 昭五、七

史學九、二 昭五、六

日野開三郎 交子の發達に就いて

史學雜誌四五、一二二 昭九、二・三

加藤 繁 官營と爲りたる後の益州交子制度

同 四三、一 昭九、一

同 陝西交子考 史學十五、一 昭十一、五

日野開三郎 南宋の紙幣「見錢公據」及び「見錢關子」の
起源に就いて 史學雜誌四八、七八・九

昭十二、七八・九

○

仁井田 陞 手形(總説、爲替手形 唐宋法律文書
約束手形、小切手

の研究第二編第九章 昭十二、三

日野開三郎 便錢の語義を論じて唐宋時代に於ける手

形制度の發達に及ぶ

史學雜誌四七、六(講概) 昭十一、六

宮崎道三郎 唐代の茶商と飛錢東洋學藝雜誌十九、二

五四—二五五(宮崎先生法制史論集所收)

岩佐精一郎

唐憲宗朝に於ける飛錢禁止の理由に就いて 岩佐精一郎遺稿 昭三、五、十一

加藤 繁

唐宋樞坊考 東洋學報十二、四 昭九、四

森住 利直

北宋の便羅に就いて 史淵第三輯 昭六、十二

日野開三郎

宋代の便羅に就て 東洋學報二三、一 昭十、十一

同

錢引の起源に就いて 史學雜誌四三、七 昭七、七

四、金 銀

内藤虎次郎

支那の通貨としての銀（朝日講演集第四輯所收、東洋文化史研究所收） 大八、二

和田 清

支那の金銀錢に就いて 東洋學報十二、二 大十一、六

加藤 繁

唐宋時代に於ける金銀の研究 東洋文庫論叢第六 大十四、十二

吉田 虎雄

支那に於ける金銀貨幣の沿革 東亞經濟研究十六、三 昭七、七

加藤 繁

支那金銀地金形式の沿革に就いて 史學雜誌三七、七（講概） 大十五、七

同

唐宋時代の金銀地金の形式に就いて 史林二十、一（講概） 昭十、一

木宮 泰彦

遣唐使廢絶後の日唐交通 日支交通史上卷第七章 昭二、十

同

北宋との交通 同 第十一章 同

秋山 謙藏

日唐貿易による太宰府の變遷 史學雜誌四五、七（講概） 昭九、七

同

日唐貿易の發展と太宰府の變遷 同 四五、九・十 昭九、九・十

藤田 豊八

宋代輸入の日本貨に就きて 東洋學報八、二（東西交渉史南海篇所收） 大七、五

小葉田 淳

金銀の秤量及價格 日本貨幣流通史後編 第一章第二節 昭五、十一

加藤 繁

日宋の金銀價格及其の貿易について 社會經濟史學三、三 昭八、五

同

日宋の金銀貿易に就いて 史學雜誌四四、七（講概） 昭八、七

小葉田 淳

中世の金銀の價格及び其の日支貿易 — 加藤博士の所論を讀みて — 社會經濟史學三、六 昭八、九

○

Rockhill, Notes on the Relations and Trade of

China with the Eastern Archipelago and
the Coast of the Indian Ocean during the
fourteenth Century. Part II. p. 617.

Schlegel; Geographical Notes. T'oung Pao. 1899.

pp. 262—263.

本類目は唐宋時代の貨幣研究の發展の跡を辿り現在に於ける研究の狀況を知る上に於て必要なりと認むる主要なる論作を概説並に銅鐵錢、紙幣、金銀の四項目に分類し、更に各項目を内容によりて細分類して排列したものである。該分類に於ては唐宋時代銅錢、紙幣發生の事情及び其時期、貨幣制度、流通の狀態等を中心に論文を分類したが、特に經濟的文化的に高位の段階にある支那の銅錢が其の發展段階の低い四周の諸國に波及してゆく時、社會的經濟的にいかなる結果が齎されたか、その影響に關する論文の配置には特に意を用ひた。又分類の方法にありては其の内容の多岐に亘るがため一つのカテゴリーによりて分類する事は到底不可能なるものも多々あるが、煩を避けるため一論文は一回限り掲載する方針を採用した。論文の掲載に關しても可及的に廣範圍から涉獵するを旨としたが、書物の手許になきたため已むを得ず割愛したものも尠くない。殊に西洋人の研究等勿論閑却すべきではないが、書物の不便と又丹念に涉獵する暇のなかつたため甚だ

申し譯的なものになつてしまつた。Cordier の *Bibliotheca Sinica* 等によりて補足せられん事を希望して已まなう。又上記の論文は明治以降、支那にありては民國以後の論文であるが、我が國に於ては已に徳川時代伊藤東涯はその著制度通に於て、唐宋時代の貨幣に論及して居り、清朝にありても顧炎武は日知錄に於て、趙翼は陔餘叢考に於て、夫々該問題に就いて論じて居り、其の他數ふれば二三には止らないが特に重要缺くべからざるものでもないので省略に従つた。

以上は分類と排列との方針の大意であるが、何分問題が廣範圍に亘つて居り、且つ充分なる時間の餘裕のなかつたため甚だ杜撰な然も不備なものに終つた。大方の御教示を翹望して已まぬ次第である。(佐伯富編)

日 本 寄 語 (四一頁より續く)

肚饑	勤大	ルシ	ヒダ
哭	乃古	ナク	
多少	賴一故	イク	
打	胡子	ウツ	
有情	亞姉	アツ	
無情	吉乃	キノ	
醉	乃姉	アツ	
換	邀帶	ユウタ	
	皆貨	カフ	
		カフ	